

2010年9月3日

# News Release

産業用無線操縦装置 ケーブルレス ガレタ  
**AO** 朝日音響株式会社

## 33年間「難無八万台忙殺」 産業機械用 無線操縦装置 生産累計8万台を突破

クレーン、チェーンブロック、搬送台車、建設機械、特殊車両など産業機械用無線操縦装置を開発・製造・販売する朝日音響株式会社(徳島県板野郡上板町 代表取締役:河野繁美)では、製品生産累計台数が、この8月で8万台を突破しました。会社設立33年、産業用無線操縦装置の市場に参入して31年目での達成です。

### 【8万台までの道のり】

弊社は当初、カラオケのハシリともいえる「ボイスチェンジャー」と呼ぶ、レコード等の歌謡曲から歌声のみを消すオーディオ製品の開発・製造会社でした。その後、世界初の無線を使ったマイカー用エンジン遠隔始動装置を開発しました。このときに実用化した電波雑音に強い無線技術を 次は産業機械用に転用、クレーンなど産業機械の無線操縦装置を1979年に開発し市場に参入しました。その後1981年には、それまで首掛け式が主流だった市場に対して新発想となるハンディタイプの無線操縦装置をいち早く投入、この市場で一定の地位を確保、以降30余年にわたり「大きな困難も無く業務に忙殺されて」今日に至りました。

### 【8万台記念品】

弊社は、自社で賄える物は出来るだけ自作する社風があります。従来より、社内の製造設備、電気工事を始め、カタログ、広告、ホームページに至るまで自社にて製作しています。今回の記念品もこれにならって、「手作りカード」を作成、阿波踊り手ぬぐい(これは既製品)と共に、8万台めとなった製品に添付して得意先に送り、感謝の意を伝えました。

### 【8万台 感謝のぼり】

8万台達成の「のぼり」を作成、社屋周辺に設置して来社する取引先様に感謝の気持ちを伝えています。

### 【なぜ難無八万台忙殺？】

すでにお気づきでしょうが、「南無八幡大菩薩」のダジャレです。

弊社社長:河野繁美の家系を、史実7代、実家の口承23代、更に戸籍謄本4代で巧く(都合良く?・・・笑)

つなぎ合わせれば、源 八幡太郎 義家から合計30代目(つなぎ目が重複するので単純な足し算の合計では無い)という事になる御縁や、源平合戦で手柄を立てたという人物、河野通信の名「ミチノブ」が「ツウシン」と読める事と、我が社が通信機製造業に在る事にも、八幡様との縁にあやかって、氣勢を上げているのです。(別紙、参照下さい)

### 【本件 問い合わせ窓口】

朝日音響株式会社 探進部イベント係 田村  
〒771-1350 徳島県板野郡上板町瀬部 電話:088-694-2411/ファックス:088-694-5544  
電子メール office@asahionkyo.co.jp ホームページ <http://www.asahionkyo.co.jp/>

以上



弊社玄関前に設置した  
【8万台 感謝のぼり】



**祝**  
生産数累計 **8万台**達成!

出荷日 2010年8月24日  
製番 **080000-0-VP**  
型式 **ケーブルレス8000**  
**RC-8518UQ00804**

2010年1月5日撮影

100万台越え!!を目指して...  
今後も御支援賜りますよう、宜しく御願ひ申し上げます。

**AO** 朝日音響株式会社

【8万台 記念カード】  
上...表面  
下...裏面

**祝**  
生産数累計 **8万台**達成!

(南無八幡大菩薩)  
**難無八万台忙殺**

皆様のおかげをもちまして、  
大きな困難も無く **8万台**を製造、  
今も業務に**忙殺**されております。

**難無八万台簿冊**

お客様からの注文時に作成した  
製品受注票(原簿)、仕様書の  
保管場所にて感謝の合掌。

実は、この場所にあるのは、ほんの一部。

箱の中には製品受注票(原簿)や仕様書が多数保管されています。

全ての受注票の情報はデータベースに入力され、さらに仕様書と共に、紙面をそのままイメージデータに変換、サーバーで保管されています。

**AO** 朝日音響株式会社

(添付資料)

## なぜ 南無八幡大菩薩 ？

南無八幡大菩薩という言葉は、和寇たる海賊船が掲げた幟に書かれていた言葉として有名で、中国南部や東南アジアの漁船とか商船、海岸部の住民が見れば震え上がったと言います。

しかし、これは、八万神に対する神頼みの言葉です。八幡神・・・神と菩薩・・・仏教上の信者が・・・？これは神仏習合上の考えに於いて神が修行して仏になるという考えの上での出来事なのです。そして、仏になった神を菩薩と言うそうです。

ここに言う八幡大菩薩も、その一種です。しかし大本の八幡神は？と言うと、応神天皇と、その母：神功皇后を祭った宇佐八幡宮に始まり、都の西方を敵から守護する神なのでした。それをモット都に近い場所へ持ってきたのが、石清水八幡宮でして、やはり都の西に位置します。

が、ここで、これを氏神としたのが、都で発生した武家の清和源氏でした。清和源氏は清和天皇の皇子が臣籍降下して、皇族では無くなり、武士となったのです。その後、当主が源頼義の時代に長男(源義家)が、ここで、元服式を挙げ八幡太郎義家と名乗りました。

参考までに次男は、あまり名を聞きませんが、賀茂神社で元服をしたのか？賀茂次郎義綱と言います。三男は、甲斐源氏 武田信玄や佐竹氏など多くの武家の先祖となった新羅三郎義光です。おそらく、新羅神社で元服したのでしょう。しかし、名を呼ぶときには、朝鮮の国名の通りシラギとは呼ばない様で、シンラ三郎義光と呼ぶのが正しい様です。

もう一人、巷の話では四男という三島四郎親清が居ます。この親清を、源頼義が伊予国司の時に伊予の豪族 河野親経の処へ婿養子として入れたと言うのです。

この親清というのは実は頼義の四男でなく、頼義の長男：義家の孫だと言う秘密を古文書に書いて有りました。義家が孫を自分の父の頼義へ届ける時に、自分の孫との証拠として、自分に貰った清和源氏頭領としての証の品を添えたと言うのです。

この品は、親清の婿入り道具として、一緒に河野家へ来てしまった。それで、伊予国の河野氏は元々の氏神三島神社(現大山紙神社)の他に源氏の氏神も、祭り続けて来て居ました。

この話は弊社河野社長の先祖と思われる河野通久が承久の変により、阿波国富田荘(注1)の地頭として着任時に、三島神社を今の徳島市西大工町へ勧請したのと共に、八幡神社(注2)も現：徳島市内に勧請し、共に造営している事で確かだと思われます。これら両神社は今も徳島市内眉山の裾部に現存します。

同社長は数年前に この地頭通久の孫、曾孫と源氏の頭領を示す品が描かれた古文書の存在を知り、更に、この通久の曾孫の顔を見て驚愕！自分の顔と酷似していた事から、「アッ！ 家に伝わる法螺話、本当だった！」・・・とばかり(笑)、歴史的縁起を担ぎ始めました。

注1・・・「阿波国富田荘」

現徳島市の南、北、西端を除いた中心部：昭和30年以前の市制区域と一致し、今でも「旧市内」といえば通用する区域。

注2・・・こちらは、その後 移転も有ったようですが、富田浦八幡宮として現存します。